

総合教育センターだより

109号

平成25年9月発行

山梨県総合教育センター

平成25年度 夏季研修会を終えて

—教育指導部—

本センターでは、7月24日から8月23日までの約1ヶ月間、平成25年度夏季研修会を開催いたしました。

140近くの研修会に、各校種からのべ約6,500名の先生方の参加がありましたが、台風など天候による研修会の中止もなく、また、センターの保健室利用も数件のみと医療機関への対応もなく、無事に終了することができました。今年度は、例年にない猛暑で、連日35度以上の高温でしたが、節電を視野に入れながらのエアコン使用もスムーズにでき、比較的快適な研修環境を提供できたと思っています。駐車場への御協力も含めて、参加されました先生方の御理解と御配慮に心より感謝申し上げます。

さて、児童生徒の前に立つ私たち教員にとっての「研修」は、自らの指導力量向上のためには重要かつ不断の仕事であります。授業力や生徒指導の力の育成等、それぞれの職種・校種及び教員としてのライフステージに応じた研修内容を提供するとともに、次から次へと立ち現れる教育を取り巻く諸課題に対応した研修の構築も、本センターの大切な役割です。そういう意味では、24年度から始まった「中堅教員研修」をはじめ「経年研修」などの悉皆研修は、今後も関係各位からの貴重な御意見等を参考にしながら改善を図っていく必要があります。また定員を大幅に上回って希望が多かった「タブレット活用研修会」などの時代の流れに沿った研修会の在り方も改善していきます。

さらに、研修方法についてもより満足度の高い研修会を目指して、「参加・体験型研修」を昨年度に引き続き取り入れ、受講された先生方からは良い評価をいただきました。新校長研修をはじめとした「教育経営研修」や初任研、五年研などの「経年研修」の指名悉皆研修についても、研修の意義を折々に訴え、現場の教育に生きる研修成果を得られるよう工夫改善をしていきたいと考えております。

酷暑が過ぎ去り、爽やかな風が心地よい季節となりました。地域によっては本センターの研修会に参加するために、あの暑さの中、片道2時間半をかけてかけつけてくださった先生方もいます。今、往復5時間をかけて参加していただく価値のある研修会をこれからも構築していきたいと気持ちを新たにしています。

平成25年度夏季研修会の様子

特色のある研修の中からいくつかご紹介します

カリキュラム・マネジメント研修

昨年度新設された「カリキュラム・マネジメントと学校評価研修会」の内容を精選し、本年度は「カリキュラム・マネジメント研修会」として実施しました。受講者は新教務主任、中堅教員の先生方を中心に220名の先生方が受講しました。

前半は、日永龍彦氏（山梨大学教授）より、「カリキュラム・マネジメントの理論と実践」と題して、カリキュラム・マネジメントの政策動向や必要性、現状について具体的な話をいただきました。カリキュラム・マネジメントに取り組むことは、学校教育目標に示される価値の実現（＝「子ども達の笑顔」）とやりがいを感じる職場を目指す「学校づくり」に「評価」の手法を用いて取り組むことであり、そのような「学校づくり」のためには、人と人、教科と教科等々を「つなぐ」意識が大切であると強調されていました。

後半は、校種別・班別に分かれ、各学校の実情にあわせて行っている教育活動の具体的な例から各学校に共通する課題や成果について整理し、その課題や成果に対して「教務主任として果たすべき役割」について検討し、「まとめ用紙」を作成しました。その後、3班ずつのグループに分かれ、各班の検討事項を発表し、検討内容を深めました。受講された先生方から「実際の子供たちや地域の保護者などを想定しながら話を聞くことができた」「具体的、実践的な内容での研修は学校に戻ってからの様々な場面で有効に活用することができるので良かった」「グループ討議、意見交換により、様々な情報交換をすることができ参考になった」等の感想が寄せられました。



野外観察研修会



タブレット活用研修会

本研修はICTを活用した情報教育推進の一環として新設されたもので、定員20名に対して64名が受講した。全体を2グループに分けて、講義と演習の2部構成で進めた。講義は山梨県立大学の八代一浩先生によるもので、タブレット端末iPadの特徴、基本原理、周辺機器との組み合わせ、今後の展開などについてお話をいただいた。



演習は本センター研修主事によるiPadを使った実技講習で、最初に基本操作の説明と授業での画像や動画の活用事例の紹介があった。その後の演習では、「iPadを活用した授業を構想しよう!」と題して、3~4人の班で実際の展開例と活用場面を話し合った。iMovie等のアプリを使って授業案を考える班もあった。

受講後のアンケートには、「視覚でとらえさせるのにとっても有効だと思う」、「紹介されたいくつかのアプリを早速使いたい」、「スピーチ発表や面接練習など様々な場面で活用したい」、「早速個人で購入して使い方を勉強する」といった声が多く寄せられた。本年度スタートしたばかりであるが、現場では小学校を中心にタブレット端末の導入が徐々に進んでおり、今後も効果的な活用事例を取り上げながらタブレット活用の裾野を広げてゆきたい。



音楽科研修会



体育科研修会



フィジカルケア研修会



明日から使える図形指導研修会



生活科授業力アップ研修会

初任者研修会

この夏の初任者研修は、宿泊研修(7/31~8/2)、福祉とボランティア研修(8/7)、学校教育相談研修(8/16)、教科指導法選択研修を実施し、それぞれが大変充実した研修となりました。中でも、八ヶ岳少年自然の家において2泊3日で実施した宿泊研修会は、2つの視点「引率者として」「児童生徒として」で臨み、各研修運営を11グループで担当しました。これは初めての試みでしたが、各グループともに創意工夫を凝らして所期の目的を十分



果たすことができました。研修内容の「レク

レーションの理論と実際」「野外炊事の実際」「自然観察の指導法と実際」「農業体験の指導法と実際」等では、初任者自身が体験を積むことはもちろん、児童生徒への実践的な指導力の育成を図りました。

また、福祉とボランティア研修では、県内7施設に分かれて福祉体験を行い、その経験をもとにボランティア教育の推進を考えました。



いじめ・不登校に向き合う勇気づけの学級・学校づくり

1日目の研修は、東京学芸大学教職大学院の大熊雅士先生の講義でした。実践に裏打ちされたお話は大変説得力があり、受講された先生方がみるみる引き込まれていきました。

昭和から現在にかけての様々な社会、教育界、家族の変化が様々な子どもたちの問題を引き起こしていることを、当時のヒット曲を交えて説明してくださいました。アイスブレイキングやSST、プロジェクトアドベンチャーなどの話や、不登校児童生徒や3・11で被災した子どもたちを対象としたキャンプで実際に行われているアクティビティ30などを次々と紹介してくださいました。楽しいだけでなく参加者が自然とつながっていくような仕掛けの種明かしを丁寧にいただき、実践につなげやすい内容でした。

2日目の研修は、「勇気づけ」というテーマで行いました。これは学級づくりのベースとなるアラー心理学の最も重要なコンセプトのうちの一つです。様々な課題について解決志向で話し合うことにより、参加された先生方がお互いに勇気づけ合えるようなクラス会議をしました。

2日間の研修を通して参加者の中に生まれた、相互尊敬・相互信頼の関係が教室でも育まれることにより、いじめ・不登校の問題は解決に向かうと考えています。それらの問題が、その時、その場限りで忘れ去られないように、これからもみなさんといっしょに解決の方路を探っていき、山梨版の「いじめ予防、対応プログラム」を作れたらと考えています。



特別支援教育の授業づくり研修会「ビジョントレーニング」

読み書きや算数が苦手な子どもの中には、その見え方に原因があることも考えられます。

今回この研修会では初めて「ビジョントレーニング」を取り上げ、信州大学病院で心理士をされている両川晃子先生を招聘して講義をいただきました。講義では、眼球運動がスムーズでなかったり、見え方に課題があったりということが学習に大きく影響している場合があること、それに早く気づいてトレーニングによって改善できること等、事例を通して学ぶことができました。また、トレーニングに使用する数多くの教材教具を持参していただき、様々なトレーニング方法について実際に教具を使つての実演等は受講者にとっても実感を伴うものとなりました。読み書きに困難さを抱える児童生徒の指導に欠かせない視点として、今後の実践に活かせる内容は受講者のニーズに応える研修会でありました。



家庭科研修会



火山研修会

外国語活動から中学校英語への連携研修会

小学校高学年に外国語活動の授業が新設されて、今年度で3年目。校区を中心とした小中連携の重要さが、ますます注目されてきています。今年度は、この「小中連携」にスポットをあて、同地域の小中学校の先生方にお集まりいただき、研修会を開催しました。

講師の直山木綿子先生（文部科学省調査官）には、山梨県の外国語活動等に関わっていただき、はや5年目となります。直山先生からは、「担任が、きちんと外国語活動の目標等を理解し、35時間の授業を確実に行うこと」「中学校の英語科の教員は、英語科のプロとして、誇りを持って生徒に英語の力をつけさせること」というメッセージをいただきました。

また、小中連携の実践例を、弦間文教諭（甲府市立東小学校）と古屋昌信教諭（北杜市立長坂中学校）のお二人に発表していただきました。弦間先生は、外国語活動で行われる活動をいくつか紹介して下さいました。そして会場の先生方と実際に活動を体験してみることで、外国語活動の目指すべきもの等の理解を深めました。古屋先生は、校区の小学校の先生方にアンケートを取り、実態把握から連携をスタートさせたことや、フォニックス指導（アルファベットがもつ音と綴りの関係に関する指導）、ALTの活用などについて話していただきました。

アンケートの記述に、「この研修会をきっかけに、小中連携の第一歩を踏み出したい」「ALT任せの授業を反省し、担任として、正面から授業に取り組みたい」「小学校で何をしてきたのかについてまず知り、中学校でそれをどう生かすことができるかについて考えたい」といった前向きなお考えのものが多かったことが、とても印象的でした。



環境ともの作り研修会



山梨の考古学研修会

Introduction of new ALT

新しいALTキャサリン先生です。8月より2年間の予定でセンターを拠点に県内の支援学校で英語を教えてください。どうぞよろしくお願いいたします。



Hello! My name is **Catherine Glen** and I am the new center ALT. I am very excited to live and work in Japan. I studied psychology and neuroscience and after college I did research with teenagers with drug addiction. I will be teaching at four main special needs schools: Akebono, Kaede, Yamabiko, and Fujizakura. I like to cook, hike, and camp! I hope to learn many things while in Japan and I hope to show you many things from my home town. Thank you everyone for your kindness and I am looking forward to life in Yamanashi!

本センターでは、毎年一般留学生を募集しています。一年間にわたり、本センターで自分の興味関心のある研究テーマに基づいて、教育研究および研修に専念する良い機会です。かつては、10数名にわたる一般留学生が学び、その成果を県内各校に還元していましたが、現在は若干名となり、その分厚く丁寧な指導を受けられる体制が整っています。

留学生としての一年間は、研究の分野では、本センター研究開発部スタッフの指導・支援をはじめ、センター内の専門職員等の支援チームの指導を受けられ、また県内各地に研究協力員を募り、研究の支援体制を作っています。また、自分の研究テーマに基づく県内の授業研究会等にも積極的に参加できるようになっています。

研修の分野でも、自分の専門だけでなく、教育全般のセンター内外における各研修会を希望に応じて受けられ、視野を広げられるとともに、ふだんなかなか聴くことのできない県外の著名な講師の講義に触れることもできます。さらにセンター所長・副所長をはじめ、さまざまな専門知識を持った所員の課題研修会や講話会を一般留学生のために定期的を開催しています。

一緒に教育研究をしてみませんか？



詳しい募集要項等は、各校に配付されますのでそちらを御覧ください。センターのホームページからも応募書類等をダウンロードできます。応募期間は **9月25・26・27日(9:00～17:00)の3日間**です。応募書類は、小・中学校教諭及び養護教諭は県教育委員会義務教育課、県立学校教諭及び養護教諭は県教育委員会高校教育課に提出してください。

<http://www.ypec.ed.jp/htdocs/>

～平成26年度一般留学生を募集しています～

研修の日々

一般留学生 小林 芳樹(上野原高等学校)

今年度から一般留学生として総合教育センターにて勤務しておりますが、センターでの日々は研修主事の先生方から支援を受けながら、自分の研究を進めることが中心となっています。

学校現場の慌たしさの中では、目の前の仕事に励む日々であり、研究や研修の時間を確保することが困難な状態でありましたが、ここセンターでは非常に恵まれた支援体制の中で自分自身の研究に励み、教師としての資質向上を図ることができます。またセンターには小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の先生方がいらっしゃり、その幅広い経験から多くのことを学ぶことができ、普段の学校現場では経験できないような考えなどに触れて教師としての視野が広がるなど、人間的に成長できる環境にあります。

一般留学生としての研修生活も半ばに差し掛かり、今後は研究の理論に基づき、現場での授業実践、そしてその検証へと進んでいきます。1年間の研修を通して多くのことを学び、現場に還元できるように努めていきたいと思いをします。

充実した研修生活です！

一般留学生 高尾 亜希子(富士吉田市立明見小学校)

研究に専念できる生活を送るようになってから、5ヶ月が過ぎました。この間、学習指導要領をはじめ、文部科学省から出された指導事例集や参考資料、各出版社から出ている教育書等を繰り返し読んできました。また研修主事の先生方に、研究の基本的な考え方や進め方を丁寧に教えていただきました。現場では、明日の授業のために何が必要か、今日中に終わらせておくことは何か、と慌たしい毎日、「思考力・判断力・表現力等」「言語活動の充実」等の課題についてじっくり考える時間はなく、学習指導要領の中身も、教育課程説明会の内容も分かったつもりで過ごしていたように思います。

子どもたちに生きて働く力を付けたいと思い、総合教育センターの一般留学生の制度に志願しましたが、この機会を得てしっかりと学び直すことができ、本当に良かったと実感しています。

私は音楽科における言語活動について研究していますが、音楽以外の研修が受けられるというところも、教育センターならではのよさだと思います。今年度は国語、社会、理科、教育相談、ICTの活用について、先生方の専門性を生かした研修を受けましたが、どれも目から鱗が落ちる内容でした。これからの研修も楽しみです。

学び直す機会

一般留学生 山下 忍(笛吹市立境川小学校)

私が「総合教育センターへ研究に…」と考え始めたきっかけは、今までの自分を振り返ったことでした。教員として経験年数を積み重ねる度に、自分の勉強不足を実感することが多くなってきました。今までの自分を振り返り、もう一度しっかりと教育における理論と方法を学びたいと思い、教育センターへの留学を希望しました。

センターでの日々は、自分の研究を進めることが中心になり、昨年度までとは違う生活に最初は戸惑いを感じましたが、研修主事の先生方の手厚い支援体制に支えられ、恵まれた環境の中で研究に向かうことができる有り難さを実感しています。また、総合教育センターは、全ての校種の先生方が揃っています。そのため、研修主事の先生方の幅広い経験や視点などから様々な分野の教育理論を学ぶことができ、教師としての資質向上を図ることができます。

一般留学生としての研修生活もすでに折り返し地点を迎えようとしています。今後の研究を進めながら、少しでも多くのことを学び、現場に還元できるよう努めていきたいと思いをします。

編集発行 山梨県総合教育センター
山梨県笛吹市御坂町成田 1456
電話 055-262-5571(代)
Fax 055-262-5572
発行責任者 所長 坂本 明大

